

## 編集後記

- ・CM等でも良く耳に目にするハトムギを特集しました。
- ・東南アジア原産の作物とされるが、奈良時代か江戸時代に中国あるいは朝鮮半島を經由して我が国に伝来したと言われ、国内では、それぞれの地域において栽培適性を持つ系統を選抜・栽培し、漢方や民間療法で薬用に供されてきたと言います。
- ・昭和50年代後半に水田転作作物として期待され、各地の保存系統の栽培地域適応性の比較試験が行われ、国の研究機関での新品種育成も進められました。
- ・栽培は盛衰がありますが、薬用の外、近年は栄養価も高く健康食品としての需要も多くなり、用途も、お茶、麺類、調味料、菓子等多くの食品も開発されています。
- ・また、消費に占める輸入品の比率が高い中で、食の安全等の観点から国産ハトムギへの期待が高まり、生産の拡大が求められてきています。
- ・特集では、栽培の基本となる品種育成の現場からは、暖地、寒冷地向け育種の目標と新品種紹介等を、生産現場からは我が国におけるハトムギ栽培の総括、と、主たる産地からは生産概要、課題、試験研究への要望が示されました。
- ・特に、品種と種苗供給体制上の課題が大きく残されており、更なる品種改良と安定的な種苗供給の体制確立の要請に強いものがあるようです。
- ・加えて、ハトムギは機能性等新たな研究成果等もあり、機能性食品、薬用等多面的な作物特性と地域の食文化との関係も含めた、医学的視点から紹介をいただきました。
- ・その中では、ハトムギの薬理学的作用、ガン予防薬としての期待、肥満対策、骨粗鬆症等々その可能性が紹介されています。また、更には化粧品原料としての可能性が示唆されています。
- ・関係機関紹介では、茨城県山間地帯特産指導所の業務の概要を紹介いただきました。茶、コンニャク、地域特産花豆の常陸大黒、山ウド栽培等々、地域に密着した研究現場が有ります。
- ・また、(独)種苗管理センターは、我が国の種苗に関する中枢機関として、原原種生産供給、種苗検査、栽培試験、品種保護、等々幅広い業務を担当しており、今回は全体概要の紹介をいただきました。
- ・行政情報では、国産指向が高まる中で、加工・業務需要への対応指針が先程国から示されたことからその概要を紹介しました。その中でも、地域特産農作物の種苗供給体制について、生産の縮小と共に種子供給体制も脆弱化した実体が指摘され、その再整備が求められています。
- ・研究情報では、(独)種苗管理センターより品種識別を支えるDNA保存について紹介いただきました。知的財産権としての品種育成者権の保護、品種識別等の基礎となる技術実体が良く理解出来ます。(上野)

発行日 平成21年7月1日  
発行 財団法人 日本特産農作物種苗協会  
〒107-0052 東京都港区赤坂2丁目4番1号  
白亜ビル 3階  
TEL 03-3586-0761  
FAX 03-3586-5366  
URL <http://www.tokusanshubyo.or.jp>  
印刷 (株) 丸井工文社